

東久留米市立図書館協議会による平成 30 年度図書館事業評価について

図書館協議会では、年度ごとに図書館事業について評価を行っています。平成 29 年度は、これまで定例事業として実施してきた子ども向け事業について、「ニーズと事業内容」及び「読書活動や図書館利用にハンディキャップのある子どもたちへの支援」という 2 つの観点から評価を行いました。

図書館には、地域に関する資料及び情報を網羅的に収集・保存して提供することを目的とした地域資料サービスがあります。サービスを展開するには、まず資料を収集することから始まりますが、東久留米市立図書館では地域資料収集基準を策定し、その地域の公立図書館が収集しなければ散逸してしまう可能性が高い地域資料について、資料や情報を継続して収集、整理、保存しています。

地域資料は、現在及び将来の利用者のためにあります。そこで、平成 30 年度事業については、図書館がまとめた「平成 30 年度東久留米市立図書館地域資料サービスの実績及び自己評価」（別紙）を受け、地域資料サービスにおける資料や情報の提供と利用の観点から、図書館協議会の意見をまとめました。

（地域資料サービスについて）

- 地域資料サービスは市立図書館の重要な役割であるため、積極的に事業展開してほしい。

（地域資料について）

- 地域資料は原則 1 部を永年保存することから、資料の管理や保存環境にはできる限りの配慮が必要だと考える。
- 東久留米にしかない資料もあるため、管理や保存に配慮してほしい。

（子ども向け資料について）

- 子どもが使える地域資料や子ども向けの地域資料の作成については、子どもの立場に立って、本の紹介だけでなく、子どもにとってわかりやすいという前提で考える必要がある。

（オーラルヒストリー事業について）

- 今後も継続してほしい事業であり、子ども向けの地域資料を作成する際にもよい参考資料となると考える。

- 地域には語り手となりうる方も多くいることから、今後も継続することで資料として充実したものとなるのではないか。
- 冊子としての作成、保存だけでなく、動画など映像資料や別の媒体での保存さらには公開も検討してほしい。

平成30年度 東久留米市立図書館地域資料サービスの実績及び自己評価

実 績		自己評価・課題
収 集 ・ 整 理 ・ 保 存	・基準等の改訂・整理 地域資料収集基準を改訂するとともに、地域資料・行政資料についての定義を整理 ・地域資料受入冊数 570冊 ・地域資料案内の発行・改訂 「東久留米の団地」の調べ案内の作成及び「東久留米の自然」「群馬県榛名地域」の調べ案内の改訂 ・東久留米市に関する新聞記事索引の作成（2017年版・2004年版） ・市政情報コーナー資料のデータ入力	◎東久留米市立図書館資料収集方針の全部改正に伴い、地域資料の収集基準を改訂した。あわせて、これまで明文化されていなかった地域資料・行政資料について定義したことで、一定の資料整理が行われた。 ◎行政資料の収集について、庁内における納本制度を確立するとともに、対象資料をリスト化することで、漏れなく収集していく必要がある。 ◎成果物をつくることにより、図書館としてのサービスや蔵書の充実及び司書の調査・研究能力の向上につながっている。
提 供 ・ 利 用	・地域資料コーナーの資料整理及びレイアウト変更（見出しの整理等） ・オーラルヒストリー事業の実施 参加者31人 「第6回語ろう！東久留米 南沢の農業と畜産」 ・記録冊子の発行と頒布 『第5回語ろう！東久留米 東久留米の団地』 ・地域資料展の開催 来場者332人 「東久留米のぞきめがね 東久留米の農業 花卉栽培・畜産業のあゆみ」 ・企画展示「はっけん東久留米」（中央図書館2階展示コーナー） テーマ 東久留米の川／縄文のくらし／南沢と東久留米の農業・花卉栽培・畜産の推移 ・戦争展示（中央図書館1階ロビー） テーマ 東久留米にあった軍事施設 ・新着資料案内の発行（年6回） ・出展事業 環境フェスティバル 「東久留米の川」をテーマに地域資料を紹介し、図書館作成資料を配布 麦の収穫祭～東久留米麦まつり 「柳久保小麦」に関する図書館作成資料を配布	◎利用者にとってわかりやすい棚となるよう見出し等を整理したことで、図書館側の資料整理も一定の効率化が図られたが、今後も継続して書架の管理を徹底する必要がある。 ◎東久留米の歴史、文化等について市民に体験や経験を語ってもらい、その講演記録を作成、頒布する「語ろう！東久留米」は、事業として定着しており、資料作成のノウハウも蓄積されてきている。 ◎地域資料展や企画展示は、地域資料への関心やサービスの周知、資料の利用促進等につながっている。また、テーマを設定し、定期的に展示内容を入れ替えることで、資料の収集漏れや保存状態等が確認でき、資料整理の一助となっている。 ◎地域で行われている事業への出展は、地域の活動団体や個人との情報交換の場であり、様々な情報とともに資料情報も得られる機会であるため、今後も継続する。 ◎子ども向けの地域資料サービスには、学校教育を支援する側面と子ども自身の好奇心に応える側面があるが、現在は子どもが使える地域資料が少ないため、今後は子ども向けの地域資料の充実を図る。